



長与町に立地する長崎県立大学シーボルト校。

すぐ近くの大学でどのような研究が行われているかをシリーズで紹介していきます。

## シーボルト校 研究紹介

Vol.13



関谷 融 教授

## 学びの社会思想史の研究

－国際社会学部 国際社会学科－

<https://sun.ac.jp/researchinfo/sekiya>

関谷 融 教授紹介ページ▶



### 学びの原風景は個人レベルでも社会レベルでも違うという仮説

戦後の『学習指導要領』は、昭和22年の『試案』に始まって以来、ほぼ10年ごとに改訂されてきました。右の図は、歴代の『学習指導要領』が実施された期間と国民の各年齢層を対応させたものです。これを見る限りでの話となりますが、世代ごとに異なった版に異なった接し方をしたのではないかと仮説してみました。

『学習指導要領』は、学校のカリキュラムと教科書の土台(準拠)になっていることから、義務教育段階から高校にかけての年代の知識・技能の枠組とならんで学習体験の心象風景を形作っていると考えられます。

現在は教育についての議論に誰でも参加できる幸せな時代ともいえます。最近では「ゆとり」をめぐる(活発な?)議論が思い出されます。私自身は教育学をフィールドとしていますが、そうした議論に参加するときには、自分が抱えている学習の記憶や授業風景は右の図の(4)と(5)時代に固有のもので、ほかの人、とくに別の世代と同じではないという前提を忘れないようにしたいと思っています。

### 歴代『学習指導要領』の通称と概要

- (1) 試案: 経験主義からのスタート
- (2) 試案の不十分な点を整備(一部改訂)
- (3) 中・高一緒の扱いから高等学校が分離
- (4) 経験主義から系統主義への転換・教育課程の基準としての性格の明確化(道徳の時間の新設、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等)(系統的な学習を重視)
- (5) 教育内容の一層の向上「教育内容の現代化」
- (6) 詰込みからゆとりへのシフト
- (7) 思考力・判断力・表現力などを重視した新学力観
- (8) 「自ら学び自ら考える力などの生きる力」
- (9) (8)の一部改訂「確かな学力」学習指導要領に示していない内容も指導できる、小学校の習熟度別、補充・発展学習
- (10) 「生きる力」

- (11) 道徳の特別教科化
- (12) 「生きる力」の育成、資質・能力を三つの柱で整理、社会に開かれた教育課程

文科省【改訂版】学習指導要領の変遷を参照。

詳しくはこちら▶

